

八思巴字官印集積  
— 『隋唐以来官印集存』の「管軍總把印」 —

吉池孝一

羅振玉『隋唐以来官印集存』(1916年)の三十葉ウラ右上に元代パスパ文字官印の印影が収められている。背刻の拓本はない。当該書巻頭の「目録」の記述によると、背刻には「管軍總把印」「中書禮部造至元十五年三月日」とあるという。背刻の拓本が掲載されていないため確認はできない。印影は縦6.5cm×横6.5cm。

印影の文字は、左行より縦に読み、行は右に向かって進む。篆書体パスパ文字で gon【管】-geun【軍】-juŋ【總】-b(a)【把】-yin【印】とあり、「管軍總把印」となる。

なお、gon【管】とyin【印】のnの字形とgeun【軍】のnの字形は異なる。これは文字を配置する上でのバランスを考慮したものである。すなわち、前者のnは後者のnに比して刻字に要する縦幅が少なく済む。ところで、パスパ文字には楷書体と篆書体の2種類あるが、篆書体は楷書体よりも角ばっており画数が多い。また同一字の異形も少なくなく変化に富んでいる。これは、①文字に威厳を付与する、②限られたスペースに文字をバランス良く配置するという2点を考慮し工夫をした結果である。



【参考文献(発行年順)】

羅振玉(1916)『隋唐以来官印集存』民国五年。

照那斯圖(1977)「元八思巴字篆書官印輯存」『文物資料叢刊I』北京:文物出版社。

\*本稿は平成25年-平成27年度科学研究費助成事業基盤研究(C)課題番号25370488「遼金元清文字資料の研究—電子データ化を中心として—」の助成による成果の一部である。